

紙 郵 案 起

大正五年九月六日 起案

九月六日 發付

發付掛 捺印

西曆

發付後起 案者捺印

起案郵紙甲

(主務) 軍務局長 第一課長

大臣

副官

局員

次官 田參事官

人事局長

教育局長

軍需局長

醫務局長

軍令部長

大正五年九月六日

次 投

構内各部署長宛

當分間構内各部署長宛 校補助員之左記人員ヲ加ヘテ
此奉 呈 候 事 奉 申 上 候 事

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
														受月日
														發月日

0563

補助員 空軍遠科士及 一人
月附 看護員、看護員 一人

前近中、重要生起事項

海軍

海軍省案十三行部紙

明治九年五月

田子港行舟其甲友東、越中島ニ十万人亂レシト云

品川ニシテ其ク三十五ヲ擧ガシテ送ラレテシテ置ル

在ニシテ其ノ遠ニ大田大橋ニ行先方、人トシテ其

ヒ手配シテ

明治九年五月

越中島ノ船橋ニシテ其ノ中、船橋ニ

騎兵20名、リリシテ其ノ船橋ニシテ其ノ中、船橋ニ

戒嚴ヲ命ジテ通知セリ

明治九年五月

越中島ノ船橋ニシテ其ノ中、船橋ニ

軍艦北第ハ日本海軍ノ艦船ニシテ其ノ中、船橋ニ

海軍省ノ船橋ニシテ其ノ中、船橋ニ

海軍省ノ船橋ニシテ其ノ中、船橋ニ

(富井納)

0565

軍務局

軍務局

20

田

九月五日

午後 六、四、五

砂三船

丹野屋比ヨリ北園中佐へ舟艇、物等、思フ様ニ

行カス因平十侯船五ヲ得ルニ、明朝何時ニ

何處ニ送ルハオヤ又輸送ノ指揮官ハ何人ナルヤ

在ニ對シ北園中佐退艦不明志モ明早朝

並船等乗機稿ニ行カレリ可ナラント答フ

北園中佐

七一〇 鉄道省情報部ヨリ

軍艦糧食ヲ滿載品川ニ乗リ飯沼ノ際遊難民

ヲ搭載スル何日何時ニ出港セラルヤ

若シ搭載セトモ其ノ負數、積數等通知アリ度

高木舟手情報ヲ速報アリ

遊難民輸送ノ希望アルモ未タ具体安否ナラズ

(富井納)

海軍

機進中隊十三行界統

0566

七日

午に去一三。多戸ノ寺守ヨリ朝日芝浦ニ航政申新究目御車ヲ

陸揚ノ機橋指輝山下中地及航政本部

午に去一。船橋一葉未田ノ運舟ノ山松川迄達セリ

機造半葉下一行罪減

海軍

(續原載)

0568

軍務局

大正七年 九月 六

日 午後二時一分 陸務局 發
日 午後四時五分 陸務局 著

發信者

横濱 陸務長

受信者 海軍省 陸務局

電報譯

戸田陸務官至急歸任せしめらるし

海軍

0569

12.9.6

軍務局

大正五年九月

廿五日

日

午後九時五十分 佐電

局發

發信者

靜岡縣知事

受信者 内務大臣

電報譯

久遠宮朝融王殿下三日箱根宮ノ下ヨリ
沼津三島館ニ無事御遊難遊ハサル

海軍

0570

供覽

軍務局長

第一課長

建築局長

大正十二年九月 日

軍務局長

各領事館長宛
大要、舞要リ

電報

9月11日 午後1時 發電

今回震災ニ對スル救護用物資ハ軍中專ラ内

務當局ニ於テ買上ガ牛配中ニ付特ニ海軍用物資

買上ガ如要トスル場合ハ先以テ地方長官ト協議ノ上

藤田海

軍

横道中葉十三行紙

(官井物)

0571

軍行ノエトニ取計ハレ度依年

海軍

機造中葉十三行部紙

(富井納)

0572

軍

大正五年九月又

日 午前 時 分 局發
日 午前 一時二十九分 局著

發信者

如神房到吉

受信者海軍省到吉

電報譯

一〇〇〇號ヲ約一〇〇〇號ニ訂正ス

海軍

0573

軍務局

大正12年 9月 7日 午前 1時 分 海軍局 著 局 發

受信者 軍務局長

發信者 燃料部長

電報譯

自御車用揮發油百噸ノ外尚八十噸ヲ
送付得

海軍

0574



軍務局

横鎮災機密第三三號

大正十二年九月七日

横鎮災鎮守府司令長官 野間口兼雄

横須賀海兵團長 兼坂 隆 敬

東京派遣軍樂隊員ノ件

當分向東京派遣軍樂隊員ハ臨時海軍省ニ於テ
海軍省副官ノ命ヲ受テ警衛及雜務ニ服セ

右訓令ス

(終)

0575

軍務局



大正十二年九月八日

横須賀鎮守府司令長官野間口兼雄

海軍水雷学校長大谷幸四郎殿

横須賀海軍測量隊司令佐川四郎殿

兵員派遣ノ件

左記下士官兵少クモ一ヶ月滞在ノ豫定ヲ以

テ東京海軍無線電信所ニ派遣シ同所

長ノ命ヲ奉ケ服務カセシムヘシ

右訓令ス

追而派遣員ニハ差當リ糧食三日分ヲ携行セムヘシ

左記

0576

水雷學校

兵曹三名 (高等科水雷通信兵)

兵曹水兵五名 (水雷通信兵練習生)

横須賀海軍航空隊

機師名簿 四名 (水雷機兵)

同 二名 (發電機取扱員)

(終)

官房 供覽

軍務局

岡田

朕茲 = 緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ
經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ治安維持ノ爲ニス
ル罰則ニ関スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政名

大正十二年九月七日

內閣總理大臣

各省大臣

勅令第四〇三號

出版、通信其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス暴行、
騷擾其他生命、身體若ハ財產ニ危害ヲ及ボスヘキ犯

藤田

坂野

廣

九月七日

官房受

0578

罪ヲ煽動シ安寧秩序ヲ紊乱スルノ目的ヲ以テ治安

ヲ害スル事項ヲ流布シ又ハ人心ヲ惑乱スルノ目的
ヲ以テ流言浮説ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役若
ハ禁錮又ハ三千円以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(2)

0579

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ
經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ生活必需品ニ関
スル暴利取締ノ件ヲ裁下シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政名

年 月 日

内閣總理大臣

各省大臣

勅令第四百五號

震災ニ際シ暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ生活必需品
ノ買占若ハ賣惜ヲ爲シ又ハ不當ノ價格ニテ其販

0580

買入額シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰

金ニ處ス

前項ノ生活必需品ノ品目ハ命令ヲ以テ之ヲ指定ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

0581



朕茲ニ緊急ノ必要アリト詔ノ梟鷹殿、諮詢ヲ經テ
 帝國憲法第八條第一項ニ依リ私法上ノ金錢債務ノ支拂
 延期及テ形等ノ權利保存行爲ノ期間延長ニ関スル件
 ラ裁可シ之ヲ公布ニシム

御名 御璽

攝政名

大正十二年九月七日

內閣總理大臣

各省大臣

勅令第四百四號

第一條 大正十二年九月一日以前ニ發生シ同日ヨリ同年同月

三十日迄ノ間ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ私法上ノ金錢債務

ニシテ債務者カ東京府、神奈川縣、静岡縣、埼玉縣、千葉縣及震災ノ影響ニ因リ經濟上ノ不安ヲ生スル虞アル勅令ヲ以テ指定スル地區ニ住所又ハ營業所ヲ有スルモノニ付テハ三十日間其支拂ヲ延期ス但債務者カ其地區外ニ他、營業所ヲ有スル場合ニ於テ該營業所ノ取引ニ關スル債務ニ付テハ此限ニアラス

震災ノ影響ニ依リ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ハ大正十二年十月一日以後ニ支拂ヲ爲

スルハキ私法上ノ金錢債務ニ付之ヲ適用スルコトヲ得
前項ノ規定中三十日間ノ期間ハ之ヲ延長スルコトヲ得
第二條 左ニ掲グル支拂ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

一 國庫並其他公共團體ノ債務ノ支拂

二 官公署ノ債務ノ支拂

田

三、給料及勞銀ノ支拂ノ爲ニスル銀行預金ノ支拂

四、前號以外ノ銀行預金ノ支拂ニシテ一日百圓以下ノ

第三條 手形其他之ニ準スヘキ 有價證券ニ関シ大正十

二年九月一日ヨリ同年同月三十日迄ノ間ニ第一條ニ規定

スル地區ニ於テ權利保存ノ爲ニ爲スヘキ行爲ハ其行

爲ヲ爲スヘキ時期ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スニ固リテ

其効力ヲ有ス

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

②

0584

尾

大正十二年九月七日

改之し 録倉敬言備隊本部
鎮守府副官殿

松方公爵遭難状況ニ関スル件
公爵遭難ノ状況ハ松方正雄氏別紙ノ
通り認メ調査ニ出張セシモノニ
交附サル
別紙ヲ以テ報告ニ代ス

別紙二葉添附

(終)



0585

右大腿中央部、右膝
同部内側部擦過傷
右肘部擦過傷
右耳輪擦過傷
右側胸部擦傷
左道杯、左足、左好

0588

横須賀第五七號

大正十二年九月八日

横須賀鎮守府副官

海軍省副官殿

松方侯爵、近状ニ關スル件

本件ニ關シ御照會ノ趣ヲ兼鎌倉警備隊
本部ヲシテ調査シタル結果別紙ノ通報告有
之候

右回答ス

別紙三葉添

(終)

海軍

0589

大正十二年九月八日

鎌倉警務隊本部

横須賀、新井村、副官取

松方公署遺難状況ニ関スル件

公署遺難状況ハ松方公署長別紙通

別紙ニ調査ニ由テ七ノ二ニ交付サレ

別紙ヲ以テ報告ニ代

別紙一葉添

了

母

直

機軸全葉十三行原稿

一日午前十一時五十分検査過セント机、傍ニ傍
 ソテ坐リシ時家屋全部潰壊ニ梁落テ
 来リシ又其間ニ埋リ、戻ルコト約一時間半
 幸ニ大怪我ヲセズ救ヒ来出サレタリ
 家屋ハ住居ニ堪ヘズ、目下ハ隣々岩川上別邸
 ニ避難
 負傷、軽過ハ北帯ニ良好ニテ一週間ニセバ
 全快セン
 左大腿中央部、左膝、両内側部
 擦傷
 左肘部、検査過傷

母

宣

0592

									右 左 胸 部 擦 傷 良 好	右 耳 部 擦 傷	治 年
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------------------------------------	-----------------------	--------

(英訳)

0593

供覽

横須賀海軍病院 一四四

大正十三年九月六日

横須賀海軍病院隊司令古川四郎

海軍大臣 財部 彪 殿

一、賀陽宮大妃殿下御病状御輕過報告

一通

右進達ス

別紙一通添

(終)

(送付先) 賀陽宮山階宮内省

横須賀司令長官、醫務局長、横須賀海軍醫院長

0594

賀陽宮大妃殿下御病狀御經過報告

御顔面挫傷

御病名右御眼瞼挫創

右御肩胛部挫傷

賀陽宮大妃殿下 九月一日御負傷後引續キ御手當

中ノ處御經過御良好ニ被爲左九月五日及六日特診

御體温御脈平常御顔面右御眼瞼ヲ御頰部ニ直

リテ一般ニ腫脹シ皮下溢血ノ爲紫藍色ヲ呈スルモ御

負傷當時ニ比シ大ニ減退シ御眼瞼ヲ殆ト御自由ニ御

開キ得ル程度ニ御輕快被爲遊右御眼瞼外眥部ノ

挫創面ニ殆ト御治癒被爲遊御兩眼御視力ニ御異

常ナク御快癒ニ至ルハナク御事ト科察ス右御肩胛部

ノ同御上膊ニ直リ一般ニ御腫脹シ皮下溢血ノ爲紫藍

色ヲ呈スルモ御腫脹及御疼痛ハ遂ニ御輕快御安靜
 ノ御位置ヨリ全ク御疼痛ノ御計ニ無キ程度ニ御輕快
 被爲在夜間御睡眠稍御充分ナラズ御食思ハ殆
 ニト御異常ナク御便通ハ御秘結被爲在休シ同時
 御睡眠及御便通ノ御手當申上ヨリ要スルニ御
 負傷ノ御短過ハ御頓調ニシテ日毎ニ御快癒ニ向ハセテ
 不遠御起坐御步行等ニハ殆ト御支障ナク量
 々々御顔面及御上膊部御皮膚紫紺色ノ全
 ク御消退途ニハ餘程ノ日數ヲ要スルモト科察ス
 右報告ス

大正十二年九月六日

横須賀海軍航空隊隊長

海軍軍醫中佐 小倉俊圓

0596

次官

(印)

軍務局長

第一課長

(印)

(藤田)

海

軍

横濱牛久十三行郵便

建築局長

(印)

平場保安林

ノ件

樹木

一九一七

龍淵鉄道技師車者左記要領ノ申出ナリ

「平場ノ草取近ク、農商務省所管保安林ノ拂

下方突出シタル處既ニ海軍ニ於テ拂下方約東

海ナル知ナリ、右ハ今回鉄道應急修理ニ使用ノ

カ第ニ付以

際少々ニテモ

令嬢ヲ斃ス

鐵道省東京建設事務所長

橋本敬之

鐵道技師瀧

淵實烈

東京建設事務所

(宮井納)

0597

主務局長ノ旨ヲ承ケテ前田局員左ノ如ク應酬シ

置ケリ(要録)

海軍ニテ保安林拂下方突涉幾何迄進捗シアルヤ

目下當方ニテ明カナラザルニテ鐵道修理ハ急務中

ノ急務ナルニ付突涉若干分讓養文ナキハ急務ナリ

実行ニ関シテハ火藥廠ト直接突涉アリ度

中央ノ意向ハ昨日當方ヨリ火藥廠ハ出張スルニテ技

師ヲ以テ申傳フヘシレ、

取寄理ノ本材概數如何シ

左

約二三万本ナリ

第陸軍海軍ノ突涉ハ海軍ノ突涉ノ急務

者

(富井納)

0598

備考

一、本件保安林トハ大葉取之隣レルカ森林ナリニ用材
恐ラク数百年ニ及ス。

一、保安林拂下カ空野ノ中央ハ少シモ閑知セス
事實ナリハ大葉取ノ独断ヲ行ナリ

一、昨日建築局水沢技師大葉取出張ノ旨、本件
解ニヨリ諒解セシメ、便宜處理ノ事ト
大葉取側

(竝納)

0599

軍務局

海軍省刻



大正十二年九月七日

横須賀鎮守府副官

海軍省副官

山城艦長

山下中佐

第二艦隊副官

通信艦便來者、聞スル件

東京、横濱ヨリ通信艦ニ便來、當地ニ碇維

スル數非常ニ多、數ニ上リ來船揚陸、困難

ナルノミナラス、危險ノ恐存ニ候、件出來得ル



九月六日

0600

通 年

六ヶ之ヲ減スル様点配慮相填公本存之
能テハ便乘券ヲ以テ出来得ル限リ制限方法
ヲ採リ得ル以テ存之候

右迄相ス

82

0601

傳覽

先

文福才十三号

大正十二年九月七日

日本農商務次官

井出海軍次官殿

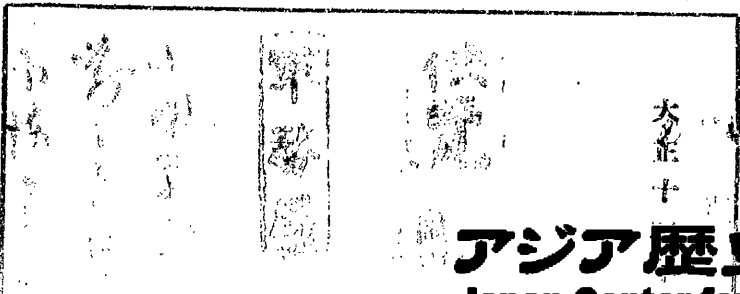
四惟此大正十二年對スル應急結與ヲ計ル外今因新ニ農商
 事務省ニ於テ新市公設中地其ノ他ノ事務所ヲシテ
 大阪神戶ヨリ到着セル農商務省食糧局所長内外
 米五十萬石ノ賣却ヲサシムルニトニ東亞候ニ付中量者
 席捲者ニ係ル輸送配給ノ事ニ支障ヲ及ササシ程
 至ニ此等ノ成程政府米ト他者所賣ノ米及民米ト應

農商務省

洋野紙

0602

0603



三田 高
 後内 外
 付 員 者
 サヤ 程
 米 ト 便

洋 郵 紙
 省



0602

0603

大正十二年 月 日
 海 軍 省 副 官
 藤田
 供 覧
 軍務局
 少 将 藤 田 高 三 郎 氏 宛
 前 記 之 如 下 之 事 宜 於 此 記 載
 方 格 上 之 事 宜 記 載 之 事 宜 記 載

分
之
下
取
扱
得
心
構
成
取
扱
計
画
煩
悩
以
外
及
他
依
頼
係
也

(喜多村納)

0604

大正十二年

九月

二日 午前

①時十五分

海軍局著

横濱小笠原、官署派

受信者内閣総理大臣

發信者 岡東長官

電報譯 (暗平)

九月廿六日大連碇泊ノ未至速洋航隊旗艦ト云ルノ
 早船長並並長官本官ノ事傍ト云ル長官ノ
 長官依リ次ノ起申申事ナリ
 東京方面震災ノ報告ハ東京府ノ博ニ之出定枚降
 一由大糧食ノ運搬其他必要ナル設備ニ對シ電下全航
 隊又ハ其ノ部ヲ善ク提供スルニ對シ本官ハ深ク

(納原 裁)

海

軍

0605

其ノ原書アリ附シ且ク其ノ旨趣ハ
薩ノ(建)ト(蒙)ノ(同)中(中)ノ(一)

横濱中華学校行拜紙

海軍

(前堂心誠)

0606

震災救護委員會 人事科

大正五年九月七

在東海軍省部御中

今回震災之因り部内料理官以下ニシテ住家又ハ下宿ノ
失シ遠方ニ退キ急遽通勤ニ不便ノ者ニ一般罹災民
ト区別シ海軍省備内ニ收容便宜共ニシテ關係備内局
泊請布申ノ向ニ家族員數ト共ニ各部ニ於テ取纏メ
大至急起シテ申出ス事取度
右如斯ク

海軍省人事白第二課

0607

官房

事務局

別紙第一

配給司令部

芝浦

配給司令部

芝浦配給司令部
西園支部

配給管區

麹町區

京橋區

芝區

赤坂區

麻布區

荏原區

日本橋區

神田區

浅草區

本郷區

支所
地
區

半藏門高等小學校

築地本願寺

勞資協調會

赤坂區役所

麻布區役所

大田區役所

大塚區役所

惠比壽區役所

水天宮

一ツ橋小學校

新谷町元車庫所

湯田川駅(南口) 住家

官房受
域備

以上各區

以上各區

0608

備考 右支所地、九月七日 為之、予亦大雨後、若千、 變更ヲ見ル、予及人シ	豊寺 配給部		新宿 配給部		同 豊島川支所		日端配給部		小石川 區	
	南葛 區	深川 區	本所 區	豊多摩 區	牛込 區	町谷 區	南足立 區	北豊島 區	下谷 區	小石川 區
	豊寺 駅	元岩崎 駅	錦糸町 停車場	高島 駅 新大塚 駅 新大塚 駅 新大塚 駅	市谷 小学校	大塚 駅 新宿御苑 駅	隅田川 駅	隅田川 駅 田川 駅 田川 駅 田川 駅 田川 駅	日端 駅 日端 駅 日端 駅 日端 駅	大塚 駅 大塚 駅 大塚 駅 大塚 駅
以上三區			以上三區			以上三區				

0609

海軍省構内

部外罹災者状況調

七日止午調

一宿泊人員

戸数
総人員 五七二名 新

食券回収總數 四九〇

自六日止午
至七日止午

退出人員 八八名
新入人員 九七名

一衛生状況

傳染病ノ疑ヲ以テ救護所(有正第五中學校)ニ送リン者 二名
ニ診察ヲ受ケタル者 二八名

0610

軍務局

大正十二年九月七日

海軍省副官

構办各局部 一 海軍

夜間通行者身分証明書件

今般開業戒嚴司令部より夜間通行ヲ禁
止セ候処公勢又ハ已ハテ得テ私用者ニ對シテハ
身分証明書ヲ交付可致矣余 要望 若ハ官爲
ニ社ニ受取之度
右通謀人

(終)

0611

供覽

軍務局

拓一平

大正十三年九月八日

拓殖事務局長元田敏夫

海軍次官殿

震災救護ニ関スル件

首題ノ件ニ関シ各殖民地ニ於テモ此際能ク
限リ救護致度ニ付所要ノ諸事項有之候
ハ、貴局宛至急御申出相成度此般申
進候也



拓殖事務局

0612

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

抄録目録

加通海録(十三行全)

0613